

丸山湿原群保全の会会報

(第 181 号)

発行日：2022 年 (R4) 8 月 17 日 編集/発行：丸山湿原群保全の会
〒669-1211 宝塚市大原野字炭屋 1-1 西谷地区まちづくり協議会事務局内

TEL/Fax0797-91-1788
090 - 1895 - 8061 (今住)

E-mail:maruyamashitugengun@gmail.com



戦争は最大の環境破壊と、差別を生み出します！

暑い！なんと長く感じる夏でしょうか。しかも連日の猛暑。私が住んでいる山間部（西谷）で実際 35℃越えがあったかどうかはわかりませんが、暑いのは事実。雨も本当に少ない。夕立はよけて通っていく。こんな地域なののでしょうか？ 以前、親父から「稲一株一株に薬缶で水をやったことがある」と聞いたことがあります。それも変な話（科学的じゃない）ですが、とにかく雨の少ない地域なのでしょう。

そんな水の少ない地域にある丸山湿原になぜ水が出るのか、そのメカニズムは解明されないままです。気候変動で湿原の水も無くなっていく？ それとも豪雨で湿原が埋まる…。本当にそれが明日起こるかもしれない状況になってきました。どうなる地球！といってもこれを人が起こしているのは間違いない。一人ひとりの行動が問われています。地球（地学的に見ると）にとってはごくごく小さな出来事なんだろうがね。人類滅亡カウントダウンか？ 自ら引き金を引いているのですが…。

(今住 8 月 16 日作成)

定期活動 ★7 月 24 日 (日) 定期活動 作業日 8 名で活動

サギソウ開花数調査ルートササ刈り

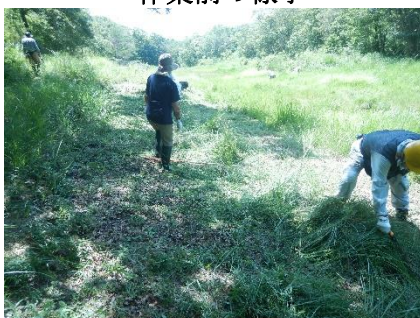
8 月 20 日 (土) 実施のサギソウ開花数調査準備です。調査は毎年第 1 湿原で実施。全体を 9 つのブロックに分け、1 方向からサギソウの開花株を数えていきます。観察ルートには 1 年でササやススキ、木本類が大きく成長。その刈り取り作業です。ブロック割りとセンサスライン（ルートライン）は次回に設置予定。

第 1 湿原のいちばん上手はほとんど水なし。以前は背の高いササが覆っていました。毎年刈り取りを進めることで、矮小化し、背丈の低い状態になってきています。シカの食害（食益？）という説もありますが我々の「管理」のたまものと自負しています。ちょうど北と南の分水界にあるためこの部分が湿原化するとは思えませんが、森林化の防止には役立っているはず。多分地下水位も高いはず。しかし作業は会員の高年齢化と年々厳しくなる暑さのためなかなかかどりません。とりあえず約 3 分の 2 のルートを確認し、ここまでとしました。視点場付近までです。

そういえば、数年前この作業中にキイロスズメバチ？に刺された会員がいました。湿原内から撤去して積み重ねた又マガヤの中に一時的な巣を作っていたようです。その後、働きバチが増えて引っ越し。あの巨大なボンボリのような巣を作るそう。



作業前の様子



作業後の様子

昨年同様今年もスズメバチの姿は少ない。昨年の女王バチの誕生が少なくてこうなっているのか、それとも別の要因があるのか。激減していたイノシシ、豚コレラ（豚熱）の影響と思われるが、こちらは少し出てきたような気がします。ハチにもパンデミック？のようなことが起きているのか？いわゆる「害虫」「害獣」と言われる生き物ですが、生態系の重要な構成種。大丈夫でしょうか。スズメバチが少ないというのはあまり話題になっていませんね。杞憂に終わることを願っています。と書いてみると、テレビで「今年は大発生」という話題が。梅雨が早く開けたため、巣作りが活発だそうです。いや～実感としてスズメバチは少ないと思うのですが、テレビ番組制作の関東地方だけの話でしょうか？情報ありましたらご連絡ください。

もう一つ珍しい話題。観察ルートの確認中になんと**カルガモ（軽鴨）**と思われる巣を発見。突然飛び出していったのですが…。卵も4つほど。うちの田んぼにも産んだことがあります。一日1つずつ産み、10個前後まで。ということは…。驚いて巣を放棄するのか、それとも産み続けるのか。今まで丸山湿原でカルガモが子育てしているのは見たことがありません。さてどうなるか、興味津々です。卵や雛を食べる生き物も多いしね。多分無理かと思いますが。



カルガモの卵



大きく見えるが2cmハッチョウトンボ

サギソウ（鷺草）は開花が始まっています。これも数年前までは7月中の開花は珍しかったのですが、7月20日ごろから咲き出すのが当たり前になっています。以前の観察力の無さなのか、本当に開花時期が早まっているのかは慎重に判断する必要があります。**ハッチョウトンボ（八丁蜻蛉）**も最盛期は過ぎたものの結構見ることができました。第3湿原木道付近にもちらほら。第3湿原で数が増えてきているようです。こちらは喜ばしい。



咲き出したサギソウ

里山大学 来訪 ★7月30日（土）北摂里山大学第4回講座 「湿原講座」

北摂里山博物館運営協議会（阪神北県民局内）が実施している「里山大学」。学長は、服部保さん（兵庫県立大学名誉教授）。「里山をフィールドにした実習中心の『市民大学講座』。里山の再生、保全、利活用、環境学習、地域の活性化などを楽しく学ぶ」ことを目的に「北摂里山34＝北摂里山博物館」を利用し本格的な学習を実施しています。「西谷の森公園」や「丸山湿原群」も「北摂里山34」に入っています。「宝塚市自然の家」「松尾湿原」「桜の園」も。（西谷地域）

湿原学習には三田の「皿池湿原」が「人と自然の博物館」とセットでよく利用されていたのですが、今回は「西谷の森公園」で座学。実習で丸山湿原へ。最近「皿池湿原」も団体の訪問が増えているようでお忙しそう。しかし未だ非公開。町に近いので盗掘等の心配からとか。名前の通り「皿池」の後背地に広がる湿原です。丸山湿原とは成り立ちも相当違う。地質は高位河岸段丘礫層？沈まない「ゴロタ石」がたくさんある湿原です。池があってもロケーション良し！加西市の「網引湿原」もため池の後背地だったような。網引の地層は大阪層群？やったね。同じような植生でもいろいろあるものです。



偉そうに講義中 誰？

共通点は「水」「貧栄養」「陽光」この3つでした。懐かしいわ〜。「丸山湿原保全ワークショップ」で学んでから何年が経過したのでしょうか。里山大学のお手伝いは初心を呼び起こすいい機会となりました。



的確なガイド 誰? でも暑そう

「丸山湿原保全ワークショップ」で学んでから何年が経過したのでしょうか。里山大学のお手伝いは初心を呼び起こすいい機会となりました。ワークショップで2005年に学んだこともあやふや? 里山大学に入り学びなおすのも手かも。でも大丈夫。里山大学卒業生がなんと5名も入会され活躍中です。今回の講座でもスタッフとして、ガイドや準備に活躍してくれました。教えを請わなくては…。

今年度は受講生が多く、約30名の参加がありました。丸山湿原へは3班に編成を分け、渋滞が起きないように配慮。それぞれのガイドから説明を受けていました。

サギソウもかなり開花。ハッチョウトンボもまだ見受けられました。「湧水湿原? = 滲水湿原?」の特徴もよく理解できたのではないのでしょうか。ただ規模的には高層湿原にはかないませんので、「いいなあ〜」と思ったかは???です。湿原のイメージの問題ですよ。しかし「このタイプの湿原としては最大級」と午前中の講義で学んでいますので…。

とにかく暑い! ハンディ扇風機をお持ちの方もおられました。「湿原の魅力」は「暑さ」に負けたかも。しかし帰りがけに「サギソウ開花数調査申し込んでます。またよろしくお願いします。」の声。手ごたえを感じた一日となりました。

そうそう、ガイドなしでは見られない(見つけられない)ヒナノシャクジョウ(雛の錫杖)も見ていただきました。(見てない班もあるかも?) ということはホンゴウソウ(本郷草)も見えたかな?



ヒナノシャクジョウ 1.5 cm ぐらい?

定期活動 ★8月13日(土) 基礎調査 7名で活動 竹筒ポストタグ交換

目的	市内	市外
丸山	70	87
ハイキング	51	41
散歩・登山	21	15

来場者数計 285 人
(竹筒ポスト集計)

場所	時間	気温【水温】	電気伝導 (EC)	PH
入口	9:58	28.7℃		
第3湿原	10:27	【25.2℃】	132.4 μS/cm	6.4
視点場	11:20	31.7℃	測定不能	6.0
第1湿原	11:31	【25.9℃】	139.5 μS/cm	6.2
第2湿原	11:50	【25.9℃】	50.3 μS/cm	6.5

水が少ない! 丸山湿原から出る沢もチョロチョロ状態。ということはEC(電気伝導度)も高くなる。140 μS/cm 近い。ECは農業の水耕栽培にも使われ、チッ素(N)、リン酸(P)、カリウム(K)などを含めた成分(不純物)の量を示します。(とっても大雑把な定義ですいません) つまり高くなると「富栄養」になるということです。雨水で50 μS/cm ぐらいまで。水道水で180 μS/cm ぐらいでしょうか。
(参考) 2020年8月の記録

想像ではありますが、水が少なく高温。枯れた植物が分解され流されることなく滞留気味に。長く続くと本当に植生が変わる可能性もあります。面白いことに第2湿原はどこから湧いて(湧水)いるのか水は比較的豊富です。同じ日なのに

場所	時間	気温【水温】	電気伝導度 (EC)	PH
入口	10:00	27.8℃		
第3湿原	10:22	【25.7】	53.0 μS/cm	6.9
視点場	10:31	29.7℃	183.3 μS/cm	6.8
第1湿原	10:41	【29.4℃】	271.0 μS/cm	6.8
第2湿原	10:59	【26.2℃】	48.1 μS/cm	6.8

50.3 μ S/cm という結果に。やはり水が安定的に必要なのは湿原の絶対条件。ま〜年間通してみると何とかはいるのですが。そんなことも言ってはられない時代の到来かもしれません。とにかく雨が少ない。今の東北地方の方々には申し訳ないですが。

もちろん過去にも 300 μ S/cm ぐらいになったときはあります。やはりこの時期です。こればかりは何ともなりません。過去のデータを添えておきます。

水は少ないがサギソウは??? サギソウ開花数調査の準備の続きです。今日はセンサスラインの設置。ところが、なぜかマーキングが見当たらない。メジャーで測り直してブロックラインを張ります。ルートラインも去年の写真をもとに張っていきますが、なかなかはかどらない。毎年のことなのになぜでしょうね。再確認の意味も込め、良しとしましょう。



ホンゴウソウ 普通は気づかない



ヒナノカンザシ

しかし暑い…。冷えたコンニャクゼリーと黒砂糖の差し入れで何とか気力をつなぎ終了！あとは当日を待つばかりとなりました。みなさんよろしくお祈りします。

その後「ホンゴウソウを写真に収めないと」と思い観察に。ホンゴウソウは見つけにくい。まずヒナノシャクジョウを探します。その周りを這いずるようにチェック！最近我々より先に見つけて爪楊枝でマーキングして頂いていて「爪楊枝を探せ！」になっているところもありますが…。もの好きなかたもおられると感謝しています。しかし基本は「ヒナノシャクジョウあるところにホンゴウソウあり！必ずじゃないよ…」が基本。爪楊枝とは別のところにも見つけました。ヒナノシャクジョウとホンゴウソウは同じ菌に寄生している菌従属栄養植物だそうです。だから近くにいる！その名は「アーバスキュラー菌根菌(AM菌)」だそうで、どこにでもいるとか。リンや水分の搬送名人？農業でも利用されているようです。ヒナノシャクジョウもホンゴウソウも絶滅危惧種ですが、温暖化で住みやすい環境になってきているのか、増えている印象があります。あくまでも私見です。ただ、見つけるのには苦勞します。もう一つ、ヒナノカンザシ(雛の簪)も咲いていました。これも花が咲かないと見つけられない貴重種です。

予告 ★宝塚「西谷フォーラム」開催！10月1日(土)

西谷会館(西谷ふれあい夢プラザ)大ホール

西谷で活動する5つの自然保護団体が結集します。今まであまり交流のなかった団体。それぞれの活動内容や目指すものを共有したいと思います。午前基調講演、午後発表会。基調講演は神戸大学教授 丑丸敦史さん、兵庫県生物学会 水田光雄さん。どちらも西谷の草花について調査研究をされています。ぜひお越しください。



センサスラインとブロックライン

参加無料 150名まで先着入場 当日受付
(コロナガイドライン遵守)



結集

5つの生物多様性保全団体

①櫻守の会 ②宝塚エコネット(TEN) ③やまもり山里
④宝塚西谷の森公園ボランティア ⑤丸山湿原群保全の会

2022年10月1日(土)

西谷会館大ホール
(宝塚市大原野字炭屋1-1)

基調講演 10:00~12:00

①丑丸 敦史(神戸大学教授) テーマ「峠の上の草原〜里草地」
②水田 光雄(兵庫県生物学会) テーマ「未来へ繋げ西谷の植物たち」

昼食(各自:午前のみ午後のみ参加可能)

団体発表・パネルディスカッション 13:00~15:30

丸山湿原エコミュージアム推進協議会
兵庫県阪神北東民局・宝塚市(共催)
環境都市宝塚推進市民会議(後援)
西谷地区まちづくり協議会環境部会(協賛)
丸山湿原群保全の会(実施団体)

お問い合わせ
連絡先 090-1895-8061(今住)
E-mail: maruyamashituzengun@gmail.com

次回活動日 8月20日(土) サギソウ開花数調査 27日(土) 宝塚ECO講座 9月10日(土) 25日(日)